

診療内容

当科の最大の特徴は、佐賀県では先駆けて乳腺内視鏡手術を導入していることです。

適応となるのは乳がんでは、「根治性」と「美容性」の両立のため、がんが小さく(2cm程度)、かつ周囲に病変が及んでいない状態で、かつ内視鏡手術のご希望のある患者さんに、内視鏡手術を行っています。また、明らかな増大傾向を示す良性腫瘍(線維腺腫、葉状腫瘍、乳腺症)や、細胞検査等での診断が困難で、腫瘍摘出による詳細な検査が必要な場合などにも内視鏡手術を行うことがあります。順調な方で術後3日、遅くとも1週間後には退院できます。また、良性腫瘍では日帰り手術(デイサージャリー)も可能です。

- 乳がん治療(手術、薬物治療、放射線治療等)のほか、
- 乳房再建(一次・二次再建)
- 出産後の乳腺炎等の良性疾患
- 検診(2次精査)
- 手術・抗がん剤治療・副作用等の不安や対策のご相談(乳がん看護認定看護師等々)
- セカンドオピニオン
- 臨床試験への参加

乳がん手術………5日～7日間 全摘、温存手術、内視鏡手術
乳腺良性腫瘍切除…1日～2日間 デイサージャリーも可能

医療チーム

ブレストセンターは、乳腺外科・形成外科・放射線科・乳がん看護師などの専門医療スタッフにより患者さんを中心としたチーム医療を実施しています。

ブレストセンター

- **ブレストセンター長/乳腺外科部長 白羽根 健吾**
日本外科学会外科専門医・指導医
日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
日本がん治療認定医機構認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定エキスパンダー・インプラント責任医師
佐賀県がん対策推進協議会乳がん部会長
九州外科学会評議員
- **形成外科部長 原田 慶美**
日本形成外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
日本熱傷学会 会員
日本下肢救済・足病学会 会員
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定エキスパンダー・インプラント責任医師
- **病理診療科主任部長 森 大輔**
日本病理学会病理専門医・研修指導医・評議員
日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本臨床検査医学会専門医・検査管理医
- **放射線科部長/副部長 相部 仁**
日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
日本IVR学会認定専門医
厚生労働省認定臨床研修指導医
- **緩和ケア科部長 小杉 寿文**
医学博士
麻酔科標榜医
日本麻酔科学会麻酔科専門医
日本ペインクリニック学会専門医・評議員
日本ホスピス緩和ケア協会九州支部幹事
日本死の臨床研究会九州支部長
在宅ネット・さが世話人
日本尊厳死協会・さが理事
佐賀大学医学部臨床教授
- **腫瘍内科(臨床腫瘍科)部長/外来化学療法室長 柏田 知美**
医学博士
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
日本消化管学会胃腸科専門医・指導医
日本外科学会認定登録医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
佐賀県身体障害者福祉法指定医
- **乳がん看護認定看護師 小野 由喜子**
- **がん化学療法認定看護師 岸副 登記子**
- **緩和ケア認定看護師 森 直美**



ブレストセンター

Breast Center
(乳腺センター)



2021.9



ブレストセンター

Breast Center (乳腺センター)



ブレストセンター長
白羽恨 健吾

乳がん患者さんは年々増加の一途をたどり、現在女性が生涯のうちに乳がんになる割合は欧米諸国では8人に1人、日本は12人に1人です。好生館における乳がん診療は平成24年に主に“乳がん治療”を担当する乳腺外科が、また平成25年に乳がん手術後の“乳房再建”を担当する形成外科が開設されました。開設以降たくさんの患者さんが来院され、また開業医の先生方、近隣医療機関からご紹介いただきました。

このような状況に加え、当館には乳腺専門医、形成外科専門医、放射線科医、病理専門医、腫瘍内科医、緩和ケア医、乳がん看護認定看護師、皮膚ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師等、専門医療者が多数在籍しており“豊富な人材・医療資源”を誇っています。

今回、**①**これら乳がん診療に関わる各科が横断的に協力して“チーム医療”をより強く展開し、より高度で最適な医療を提供する、また**②**これらを佐賀県民の皆様に分かりやすいかたちでご紹介する、目的で平成26年8月好生館ブレストセンターは開設されました。

これまでの乳がん治療（手術、薬物治療、放射線等）のほか、乳房再建、出産後の乳腺炎等の良性疾患、検診（2次精査）、認定看護師による、手術・抗がん剤治療・副作用等の不安や対策のご相談等々、新センターの役割は多岐にわたり、まさに“乳房（ブレスト）”の“トータルケア”を行っていきます。乳房に関して気になることがあれば、お気軽に受診・ご相談ください。



乳腺外科

Breast Surgery

1人の患者さんのためにスクラムを組む“チーム医療”へ

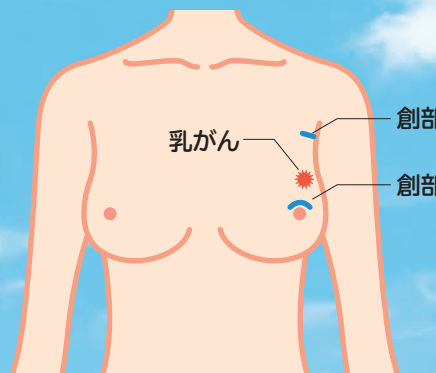
女性の乳がんの罹患率が高まっている昨今、専門医の必要性の増大や医療技術の進歩で乳がん治療の選択肢も増えたことから、当館でも乳腺外科が開設されました。大きな特徴は平成14年に保険が適用になった「内視鏡手術」を取り入れていることです。

乳がんの治療法は大きく分けて「手術治療」「放射線治療」「薬物治療」の3つ。薬物治療の中には「ホルモン治療」「化学療法」のほか、がん細胞が増殖する過程をブロックする「分子標的療法」があります。手術において患者さんが特に気にされるのは、乳房の全摘か、温存かだと思います。早期発見ならば多くの場合、温存手術が可能です。しかし、従来の温存手術は乳がんが大きい場合、比較的大きな傷あとが残るなどの弱点がありました。対して内視鏡手術は、「根治性

と乳房の「整容性」を兼ね備え、傷は乳輪の周囲とわきの小さな2カ所のみ。体への負担が少なく、良性腫瘍なら日帰り手術（デイスージャリー）も可能です。

このように乳がん治療は高度化、細分化してきていますが、佐賀県の日本乳癌学会認定の乳腺専門医は少ないのが現状です。そのため、医師と一緒に患者さんに寄り添う「乳がん看護認定看護師」の存在は非常に重要で、好生館では1名在籍（佐賀県初）しており、乳腺診療において重要な役割を担っています。また、当院では形成外科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科、緩和ケア科など各分野の専門家が話し合って治療方針などを決め、1人の患者さんのためにスクラムを組む“チーム医療”を実施しています。

一人でも多くの女性のために



代表的な乳腺内視鏡手術の創部（実線）



形成外科

Plastic&Reconstructive surgery

ニーズに合わせた、負担の少ない再建のお手伝いをします

医療技術の進歩とともに乳がん治療もより低侵襲な方向に向かいつつあります。しかしながら、未だ進行がんなどに対しては、乳房の温存が困難な症例があるのも事実です。当館の形成外科は、女性らしさの象徴である乳房に対して、ニーズに合わせた再建方法を提案させていただきます。

また、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会よりエキスパンダー（組織拡張器）・インプラント実施施設の認定を、乳腺外科と共同して取得しており、人工物を使った、より低侵襲な再建方法を保険診療で選択することも可能です。



検査部／病理部

Clinical Laboratory / Pathology

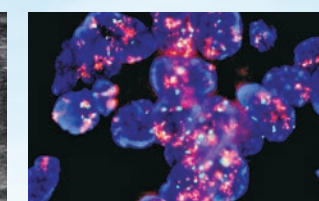
正確な診断と治療方針をサポート

検査部生理検査室では平成24年より乳腺超音波検査を始め、現在ではNPO法人日本乳がん検診制度管理中央機構A判定技師を2名が取得しています。検査件数も年々増加しており日々研鑽しながら知識と技術の向上を努めています。

乳腺治療において病理部は、術前の診断、術中のセンチネルリンパ節及び切除断端の迅速診断そして術後の切除乳腺の診断と非常に重要な役割を担っています。また、ホルモンレセプターやHER-2遺伝子の評価は治療方針を決定する上で重要な指針となります。患者様が安心して適切な治療を受けて頂けるように正確な診断を心がけて日々の業務に取り組んでおります。



乳腺エコー：乳癌の症例



平成27年3月よりHER-2FISHを館内で開始しました

